

2013年度 関東ブロック救助隊交流集会／雪山搬出訓練 レポート

千葉県勤労者山岳連盟 救助隊 <記録班> 住田、樋口

1. いきさつ

2013年度 関東ブロック救助隊交流集会が2／22（土曜）、23（日曜）の二日間、谷川岳の登山口にある、土合山の家で行われた。今年は千葉県連救助隊が主催で、横山隊長のもと、吉田・徳永・神山の3人の副隊長が核となり、1年前から準備に着手、計画的に進められた。開催月に入り記録的な大雪の影響が心配されたものの、予定どおりの50名強の関東県内の救助隊員が参加し、無事に開催された。集会・訓練内容も充実しており、参加者の方々は満足のいく交流集会であったと思う。

2. 実施スケジュール

主催者である千葉県連救助隊の有志は前夜に土合駅に入り、役割分担等の最終ミーティングを行い、万全の準備で交流集会に臨んだ。初日はスキーシーズンに2週連続の大雪も重なって関越道が早朝から渋滞したこともあり、2時間半遅れの13：00開始となった。実施スケジュール（実績）は以下の通り。23日のヒトココを使った搜索訓練は、皆さん熱が入ったせいか、早く探索でき、前倒しのスケジュールで円滑に終了した。

【22日】

13：00～ 開催の挨拶、オリエンテーション

13：05～ 全国連 遭難事故状況について（全国連 川嶋事務局長）

14：25～ 千葉県連救助隊活動について（横山隊長）

15：25～ ヒトココ（遭難搜索装置）について

（オーセンテックジャパン社 久我代表）

19：30～ 各県連救助隊の活動報告会・懇親会

【23日】

8：30～ ヒトココ（遭難搜索装置）を使った実地搜索訓練

11：30～ 訓練終了、昼食

3. 交流集会内容について

各講習内容において、要点のみ記載する。

【22日】

(1) 全国連 遭難事故状況について

山岳遭難発生は年々増加している。山岳遭難の7割は登山。山岳遭難の原因の7割は道迷い・滑落・転落の順。年齢層別では60歳以上で半数を占める。高齢者の山岳遭難者数が多いが、年齢層別の登山実績数の統計量がないため推定となるが、依然として中高年の山岳遭難者の事故率は高いと思われる。

(2) 千葉県連救助隊活動について

救助されないよう、登山技術のスタンダード化による技術レベルの維持・



向上という普及活動を努めることで登山者の遭難・事故の発生を予防する活動に重点をおいている。数年前の夏の大雪山大量遭難死亡事故について、ザックには濡れていない衣類が持参のままであったことから、雨の中でも濡らさずに着替え

るツールを紹介（単なる大きなビニール袋をパーティーに1枚共同装備で持っていればよいと思った）。つぎに懸垂下降のスタンダード化による効果が表れていることを強調した。また、空中撮影機 Phantom を使って上空からの撮

影映像を使い、遭難者を捜索する新しい提案を紹介した。地上からの捜索は効率が悪く、このような空中撮影機による捜索は近い将来、救助隊の武器になると考える。



(3) ヒトココ（遭難搜索装置）について <http://www.authjapan.com/>

今回の講習会の目玉である。メーカーが商品紹介・開発目的・搜索原理などを簡潔に紹介いただいた。既存の雪崩ビーコンの代替品とした限られた季節・領域ではなく、もっと幅広い様々な用途で使われることを前提としている。ヒトココの特徴は非常に軽量かつコンパクトで、また電池の寿命が長く（子機で3ヶ月親機で6ヶ月）、電波飛距離が広いこと（雪崩ビーコンは50m以内であるが、ヒトココは見通しのある地上で数百m以内、上空からは5km以内）で、さらに複数の人がそれぞれ異なるIDのヒトココを持っていれば、特定の人をピンポイントに探索できる、とい特徴を持つ。すなわち、どちらかと言えば雪山限定ではなく、オールシーズンで携行するビーコンで



ヒトココ（親機）

あるという使い方であり、入山開始から常時電源を入れっぱなしで携行することで万が一遭難した場合に見つけ出される確率が高くなり、ヒトココの利用価値はグンと上がるのではなかろうか。

(4) 各県連救助隊の活動報告会・懇親会

活発な意見交換がなされた。来年度幹事の神奈川県連救助隊の活動報告において、救助隊の役割が問われているとのことで、今後の活動方針が注目される。

【23日】

前々日に徳永・吉田副隊長が土合山の家の周辺に埋めた異なるIDのヒトココの子機5機を探索する実地搜索訓練を行った。搜索者はヒトココ親機で距離と方向を見ながら子機を探索する。200mとか300m離れた地点から子機を発見できることは素晴らしいし、なんといっても心強い。遠距離モードから近距離モードに切り替わる前後で、測定原理の切り替えによる不安定さを感じる。近距離モードに入ると、距離

と方向の表示だけでなく子機の電波強度を見ながら探索することで、子機に最接近で



きることを実感した。約3 m以内では、ビーコンに比べてピンポイント探索では手間取るため、積雪期の登山であれば雪崩ビーコンと併用することで、ヒトコゴの短所と雪崩ビーコンの短所をお互いに補えられ、併用するのが良いと感じた。

4. 交流集会を終えて

救助隊の先輩方の段取りの良さが全てであり、今回の関東ブロック救助隊交流集会は大成功であったと思います。個人的には、懇親会で皆様と十分な交流・意見交換ができるように、ハイグレード登山へのチャレンジと山行回数を稼ぎたいとの思いが強くなりました。